

会報 63 号

1. ご挨拶	八木正生	1～ 2
2. ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2010大会報告	深町得三	3～12
3. ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2010大会決算報告	八木正生	13～
4. ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2011大会開催案内(原案)	八木正生	14～15
5. 韓国・ソーラー&人力船祝祭2010の見学報告	深町得三	16～23
6. 韓国・鎮海旅行報告・番外編	深町得三	24～27

この度の東北地方太平洋沖地震により、被災されました皆様及び関係者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧と皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

1、ご挨拶

62号の会報に年間4回の会報の発行をお約束しましたが、どこかの国の政治家と同じく、諸般の事情により、公約を実行することが、出来ませんでした、真に申し訳なく思っております。

昨年の2010大会の大会報告を大変遅れましたが、掲載させていただきます。

日本モーターボート選手会の施設、勤労青少年水上スポーツセンターを全面借用させていただく2度目の大会開催となり、参加選手、役員共に、概ねスムーズな大会の運びとなりました。開催地の碧南・禰宜田市長が開会式、ウエルカムパーティーにご臨席いただき、来年以降の御後援の前向きなお言葉をいただきました。

長引く景気低迷の影響もあり、参加チームの減少がここ数年の課題でしたが、本年は、新たな挑戦者、BLUEMARINERS が登場し、ヤングパワーの活力で大会を盛り上げていただきました。韓国からは、国立釜山大学校・仁荷工業専門大学校より学生チームが、人力ボート部門で参加され、例年どうり優秀の記録を残し帰国されました。スプリントは強いが、耐久は弱い、韓国チームのジंकスに成りつつあります、それともキムチパワーの所為なのでしょうか？

2010大会の写真CDと、動画DVDを同封いたしますので、御覧頂きたいと思っております。今回もお届けするのが遅れ申し訳ございません。

昨年のお約束通り、2010大会の決算を報告させていただきます。2009大会は、事務局のコントロールの悪さから、大幅な赤字決算となり、事務局の実情を会員の皆様に、ご認識頂きたいとの思いからの、決算発表でしたが、本年は、計画時より予算の削減を図り、毎年100枚作るTシャツを30枚に削減(参加者に原価販売する現物が不足し大変ご迷惑をかけました)ウエルカムパーティーの食事代を参加者より徴収など、種々赤字解消に努力した結果、昨年の赤字を埋める以上の黒字に転換することが出来ました。

大会の趣旨より、決算を黒字にするよりも安い参加料で、より多くのチームが参加する、楽しい大会にして行くのが究極の目的です。本年の2011大会もこの目的を目指して改善して参りたいと思っております。参加者の皆様方から見て、より充実しなければいけないこと、こんなことは、省略しても

問題ない事など、ご意見を、事務局までメール、電話、手紙、などでご連絡をお願いします。

今年の大会の日程が、決定しました。

日本モーターボート選手会の牧事務局長はじめ、関係者のご尽力により、開催日を約 1 ヶ月早め、8 月の最終週末の 8 月 26 日(金)～28 日(日)の 3 日間にわたり開催する事に成りました。

9 月の開催となってから、高校生チームは、大会に参加するのが、難しくなっておりましたが、今回の開催日の変更によって、再度、参加されるチームが、ある事を期待しております。

3 月 11 日の東日本大震災の発生により、多くのイベントが、中止、開催保留となっておりますが、開催日が 8 月末と 5 ヶ月間の期間のあること、太陽光発電のイベントであること、東日本に参加者が居ないこと、等々を勘案して、大会を開催することと致しました。大会を開催する中で、被災者の復興支援に役立つ活動を取り入れてゆくように、考えております。

関係各位のご努力により、8 月の夏休み中に開催で来るようになりましたので、高校生チームに参加を呼びかけ努力中です。参加者の皆様からも、ここ数年本大会に参加の無い、ソーラー人力ボートの同好諸氏に声を掛けて頂きますようお願いいたします。

韓国・ソーラー&人力船祝祭の見学レポート

昨年の韓国、鎮海で行われた、“ソーラー&人力船祝祭“の見学レポートをコギトチームの深町さんより投稿頂きました。伸び盛りの韓国経済の現状を物語る、盛大な大会の様子がこの文章からも窺えます。韓国の大会でも、ソーラーボートが盛んになってきたようです、今年も8月中旬に開催の予定です。今年、は、ソーラーボートで韓国遠征するチームはありませんか？ 初めてのソーラーボートの日韓対決など興味と期待が膨らむ気がします。

JSHA 事務局を移転しましたので御知らせします。

ソーラー・人力ボート協会の事務費の軽減を図る為、事務局を事務局長の自宅に移転いたしました。この為、電話番号、住所が下記の様に変更になります。

電話番号……………053-458-9318

住所……………浜松市西区大平台 1丁目 27番-8号

メールアドレスはプロバイダーを継続しますので、今まで通り、jsha@nifty.com で変更ありません
これにより、電話料金と、NTT 光回線使用料が不要となりますので、JSHA 協会の事務費を年間 ¥60,000. 程度削減できる予定です。

JSHA 事務局の保有財産を放出します。

上記の移転に伴い、大会で長年使用した「スタート信号機1セット」と「200m の3芯ケーブル」をお譲りします。製作費用60万円で、特注したものですが、現状は簿価 0円です、作動は良好です、但し JSHA 事務局に受け取りに来られる人。当然現状渡し、条件です。

この件に興味がある方は事務局 又は、090-6330-9318……八木までご連絡ください。

事務局ではソーラー・人力ボートに関するもの、直接関係なくても、会員各位が、興味が有りそうな話題、記事などがありましたら、事務局に寄稿いただきたいと思っております。

今年こそは、年間4回の会報を発行する決意ですので、皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

以上



2. 「ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2010」結果報告書

期 日 平成22年9月18（土）・19日（日）・20日（月）

場 所 愛知県 碧南市・勤労青少年水上スポーツセンター

主 催 日本ソーラー・人力ボート協会

共 催 財団法人 マリンスポーツ財団
社団法人 日本モーターボート選手会

後 援 国土交通省、文部科学省、経済産業省、環境省
碧南市、碧南市教育委員会、

協 賛 古河電池(株)、ローランドディー.ジー.(株)

参加数 20隻（ソーラー：5隻、人力：14隻、HB：1隻）

観客数 約 500名（土日の2日間）

結果概要

はじめに今大会が無事に完了したことに付き、大会のために施設全般をお貸しくださった共催のマリンスポーツ財団、日本モーターボート競走会の皆様と、大会の運営作業を手伝っていただいたマリスクラブのボランティアの皆様、更にご後援いただいた国土交通省、文部科学省、経済産業省、環境省、碧南市、碧南市教育委員会、協賛の古河電池(株)、ローランドディー.ジー.(株)の関係者の皆様に主催者としての感謝とお礼を述べさせていただきます。

本年度の大会は、昨年に引き続き愛知県碧南市での開催となりましたが、幸い天候に恵まれ、2年目ということもあり、概ねスムーズな大会運営が出来ました。

実行委員会は昨年同様、最小限の人的資源を最大限に活用して準備を進めて来ましたが、愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンター（今後、水上SC）の使用が9月

18～20日3連休で可能になったことから開催時期は早期に決定しました。

9月の開催は学生チーム、特に高校からの参加が時期的に厳しいことから、協会としても出来る限り避けたいところでしたが、会場スケジュール調整の点でやむを得ず、昨年と同時期の開催に至りました。来年以降につきましては、更に早い時期からの調整で開催時期の変更を検討し、学生チームが参加しやすい時期を選定したいと考えています。

参加隻数は上記の理由及び長引く経済低迷の影響もあってか、かなり大幅な減少が見込まれましたが、直前になって昨年同様韓国から2チームの参加意思表示があり、最終的には人力、ソーラー両部門合わせて16隻（昨年比4隻減）となりました。詳細は添付のエントリーリストをご覧ください。また当協会のホームページに参加チームの紹介写真をスライドショー形式で掲載していますのでそちらも併せてご覧ください。

明るい話題としては、開催地碧南市の禰宜田市長が開会式並びにウエルカムパーティにご出席され、参加者と地元との交流を深めていただけたこと、韓国から釜山国立大学校、仁荷工業専門大学の2チームが遠路はるばる参加してくれたことが挙げられます。禰宜田市長からは来年以降のご後援についても前向きなお言葉をいただき感謝しています。

レース結果

(1) ソーラーA部門（水中翼艇）

さて今年のレース内容ですが、ソーラーボート部門では、常勝チームのひとつローランドソーラー研究会が活動を終了して今年から不参加となり、残る都田チャレンジチームの独壇場になるかと思われたソーラーA部門（水中翼艇）に新たな挑戦者 **BLUE MARINERS** が登場し、ヤングパワーでレースを盛り上げてくれました。このチームは以前参加していたチームコクゾーの船体を受け継ぎ、メンバーを一新して若返りを図ったの登場でした。

成績は、老練な都田チャレンジが200mと1時間耐久の2種目を制し、若い **BLUE MARINERS** は1周スラロームで勝って、一矢を報いました。ソーラーA部門の常連JRCソーラーボートチャレンジの会は、今回やや不振で上記2艇の後塵ならぬ曳き波を拝しました。

(2) ソーラーB部門（排水型艇）

ソーラーB部門（排水型艇）は、昨年からさらに1艇減り、吉田山コケタース1艇のみの参加となりましたが、記録的には100mタイムトライアル計時が12.54秒と昨年より0.74秒向上し、200m決勝レースでも26.23秒で総合3位の記録を出すなど、年々性能向上が見られるのは、素晴らしいことです。

(3) 人力A部門（水中翼艇）

人力ボート部門は、昨年の参加艇数を1隻上回る12隻の参加がありましたが人力A部門（水中翼艇）が2隻となったのは淋しい結果でした。

その人力A部門では、昨年韓国の忠南国立大学校チームに200mスプリントで6連

覇を阻まれたチームコギトが今年は事前準備も万端整えて必勝の意気込みで参加し、もう1隻、去年に引き続き韓国から参加した釜山国立大学校チームとの日韓対決となりました。

結果は100mタイムトライアルでは13.31秒と釜山チームをを約3秒引き離れたチームコギトが、200m決勝ではまさかの翼走失敗で43.71秒と大幅な記録ダウンに終わり、昨年続き韓国の学生パワーに屈する結果となりました。

1周スラロームレースは、雪辱に燃えるチームコギトが釜山チームに2分近い大差をつけ、勝利しました。両者1勝1敗のあとの30分耐久及び1時間耐久レースではマシンの信頼性に勝るチームコギトが危なげなく勝ち、人力部門の総合優勝を勝ち取りました。釜山チームはスプリント用と耐久用に2種類の艇体を持ち込むなど、勝利に対する強い意気込みが感じられましたが、チェーン、ギヤ等の耐久性に問題があったのか、耐久レースでは不本意な結果となりました。来年の大会での雪辱が楽しみです。

(4) 人力B部門（排水量型艇）

人力B部門（排水量型艇）はここ数年チームMEW、ビレッジトップ、ひょうたん島の3艇の3つ巴の戦いが注目を集めていますが、今年もこの3チームは、昨年引き続き2日間の4レース全てに出場し、最後の1時間耐久レースも完走し、14艇中、3, 4, 6位の成績を残しました。

クラス別結果は昨年4レース中3レースに優勝して還暦パワーを発揮したチームMEWが今年も昨年同様、30分耐久以外の3レースで勝利し、その驚異的なスタミナを誇示しました。またビレッジトップは30分耐久レースに新エンジンを投入し、若さの力を示してくれました。

上記3チーム以外では常連のFRPが固まらんチームから今回は2隻の参加があった他、韓国から仁荷工業専門大学チームが初参加してくれました。一方で常連チームのいくつかが参加を見合わせたことにより、会場が淋しくなった印象は否めません。今回不参加だったチームも、また来年からは是非再参加されることを期待しています。

まとめ

今年の大会は天候にも恵まれ、事故もなく楽しく真剣なレースを展開し無事完了することができました。開催時期、経済状況その他の要因で参加チーム数が減った一方、国内からも韓国からも新しいチームの参加という嬉しいニュースもありました。また地元碧南市からは今後に向けての積極的なご協力が得られる可能性も見えて来ました。

こうした中で当協会としても来年以降の活動を更に活性化するために、大会の運営、プログラム、参加者募集のあり方等について真剣に見直しを進めたいと考えています。

中でも参加者募集については、最近減少傾向の学生チームに人力ボート、ソーラーボートへの関心を持ってもらい、気軽に参加してもらえる基盤づくりを早急に整える必要があります。また折角定着し始めた日韓交流を絶やさないために日本から韓国の大会への参加チームを定期的に確保出来るような情報提供支援を協会として考える必要があります。

成績（全クラス通算結果）は下記のとおり。クラス毎の成績は協会ホームページ、2010大会記録報告に掲載しておりますので、参照ください。

■ ショートレース（200m） 参加16隻

	クラス	チーム名	タイム
1着	ソーボードA	都田チャレンジ	20秒74
2着	ソーボードA	BLUE MARINERS	21秒98
3着	人力ボードA	吉田山コケターズ	26秒23

■ 1周スラロームレース（1周 約1,000m） 参加13隻

	クラス	チーム名	タイム
1着	ソーボードA	BLUE MARINERS	1分41秒49
2着	ソーボードA	都田チャレンジ	2分37秒73
3着	人力ボードA	チーム コギト	3分05秒96

■ 30分耐久レース（1周 約1,000m） 参加9隻

	クラス	チーム名	周回数
1着	人力ボードB	TEAM ビレッジトップ	8周
2着	人力ボードB	TEAM MEW	8周
3着	人力ボードB	ひょうたん島	8周

■ 1時間耐久レース（1周 約1,000m） 参加14隻

	クラス	チーム名	周回数
1着	ソーボードA	都田チャレンジ	17周
2着	ソーボードA	チーム コギト	15周
3着	人力ボードB	TEAM MEW	15周

大会風景写真













3.特別会計Ⅰ 決算報告書

ソーラー&人力ボートレース全日本選手権大会2010

2010 JSHA碧南大会

2010/12/31

収入の部

目	目の細分	小計金額	合計金額	備考
S/H参加費	【13艇 * 30000円】		390,000	
参加艇保険料			41,710	
協会員資金カンパ			9,500	
合計			441,210	

支出の部

目	目の細分	小計金額	合計金額	備考
人件費				
	謝金		20,000	
旅費交通費			145,300	
	旅費	129,300		
	交通費	16,000		
物件費			-	
	印刷製本費	0		
事務費			124,459	
	事務費			
	事務用品費			
	ひかり回線/電話代	76889		
	通信費	2680		
	保険料	44,670		
調査研究費			15,542	
	会場設営		15542	
	会場設営費	15,542		
	看板代	0		
	燃料代等			
	催事費	0		
	開催告知費	0		
雑費			73,486	
	表彰費		0	
	賞品	0		
	表彰状等	0		
	諸雑費		73,486	
	技術交流会費			
	諸雑費	73486		
	次年度繰越金		62,423	
合計			441,210	

4. ソーラー&人カボートレース全日本選手権大会2011 大会概要(原案)

1. 期日 平成23年8月26日(金)・27日(土)・28日(日)
2. 場所 愛知県碧南市・勤労者青少年水上スポーツセンター
3. 主催 日本ソーラー・人カボート協会
4. 共催 財団法人マリンスポーツ財団
社団法人日本モーターボート選手会
5. 大会運営 ソーラー&人カボートレース全日本選手権大会実行委員会
6. 後援 国土交通省、経済産業省、文部科学省、
(予定) 碧南市・碧南市教育委員会他
7. 協賛 古河電池株式会社、ローランドディーゼル(株)、
(予定)
8. 参加艇
 - ・ソーラーボート 約 4艇
 - ・人カボート 約 15艇
 - ・ハイブリットボート 約 1艇

合計 約 20艇
9. 競技内容
 - ・ショートレース
 - 予選：100mタイムトライアル
 - 決勝：200mスピードレース
 - ・ロングレース
 - 1周(約1,000m)スラロームレース
 - 30分耐久周回レース
 - 1時間耐久周回レース

10. タイムスケジュール

8月26日（金）

- ・ 12:00～17:00 受付・船検
- ・ 14:00～16:00 試走

8月27日（土）

- ・ 08:00～09:00 受付・船検
- ・ 09:00～09:30 開会式
- ・ 10:00～12:00 ショートレース予選ラウンド（100m）
- ・ 12:00～13:00 昼休み・イベント
- ・ 13:00～15:00 ショートレース決勝ラウンド（200m）
- ・ 16:30～19:30 技術懇談会・ウエルカムパーティー

8月28日（日）

- ・ 09:00～09:30 1周スラロームレース
- ・ 10:00～11:00 30分耐久周回レース
- ・ 11:45～12:30 昼休み・イベント
- ・ 12:30～14:00 1時間耐久周回レース
- ・ 14:30～15:00 表彰・閉会式

11. 入場料 無料

12. 告知 協会ホームページ、テレビ、新聞等による告知

（文責）ソーラー・人力ボート協会 事務局長 八木正生

5. 場所を変更して開催された 韓国のソーラー人力船大会 2010

深町得三

はじめに

会員の皆さん既におなじみの韓国のソーラー人力船祝祭（フェスティバル）は 1999 年以来 12 年続く韓国の大学生によるイベントですが、昨年 2010 年に初めてその開催場所を韓国中部、忠清南道テジョン（大田）市から慶尚南道プサン（釜山）市の西にあるチネ（鎮海）に移して 8 月 20（金）、21 日（土）に開催されました。開催地変更の理由は初回以来続いていたテジョン市の会場が河川ダムの改修工事のため使用不可能となったためと聞きました。

報告時期としてはかなり遅くなりますが、昨年の大会を視察した時の様子を写真でお知らせしたいと思います。今年 2011 年の開催地はまだ主催者から発表されていませんが、おそらくまたテジョン（大田）市に戻ると思われます。しかし、チネ（鎮海）での開催の可能性もありますので、参考にしてください。そして今年是非日本からも韓国の大会に交流参加するチームが出ることを期待しています。

1) チネ（鎮海）の紹介

チネ（鎮海）は以前は市でしたが 2010 年 7 月に近隣のマサン（馬山）市とともに慶尚南道チャンウォン（昌原）市に併合され、チネ（鎮海）区と呼ばれるようになりましたが、日本とは古くから関係がある地域です。以下、ウィキペディアの記事を抜粋しながら簡単に紹介します。

まず古代には倭人の国だったともいわれる「伽耶」の領土で、中世（15 世紀初め）には倭館（日本人居留地）が置かれ、日朝貿易の拠点だったという記録があります。近代に入って日露戦争開戦に際して鎮海湾は日本の連合艦隊集結地となりました。以降第二次大戦で日本が負けるまで鎮海は日本海軍の軍港として発展した歴史があります。



鎮海軍港(1950 年頃)



鎮海の桜

日本の敗戦後、鎮海の海軍施設は韓国海軍に引き渡され、海軍士官学校、韓国海兵隊等の重要な拠点となっています。

また鎮海には日本統治時代に海軍のシンボルとして植えられた桜の樹が多く、桜の名所としても有名だったそうです。戦後は日本支配を思い出させるとの理由で一旦伐採されましたが、70年代の国家的な植樹運動によって今では復活しているようです。

2) 大会会場地図

会場は、下の地図の海沿いにあるピンクのビルの所で、英語で「Jinhae Yacht School」と書いてある場所です。現在は「エネルギー環境公園」として整備されていますが、前ページの軍港写真と次ページの会場写真を比べると沖に浮かぶ小島と後方の半島の形が同じなので、ここがまさに旧鎮海軍港の跡地と思われます。(現在の韓国海軍施設は更に沖合にあるコジェ(巨濟)島にあるようです。)



3) 大会会場写真

昨年の大会は初めに書いたように8月20、21日の2日間でした。私は19日にソウル市内のカンナム(江南)バスターミナルから朝早く高速バスに乗って、まずマサン(馬山)のバスターミナルに着き、そこからタクシーで会場に入りました。所要時間はソウルからマサンまでが途中トイレ休憩しながら約4時間、マサンからチネの会場までが意外に遠く、タクシーで30分以上かかりました。韓国は交通運賃が安いので、旅行者には有り難いです。ほぼ韓国を縦断してもバス運賃は3000円以下で、むしろタクシー代の方が高かったと思います。



上(左)がマサンのバスターミナル、右がチネの会場「ヨットスクール」です。船をかたどった洒落た建物です。



船の形のビルの屋上から撮った写真です。沖の島が古い軍港の写真と一緒にですね。ここはヨットスクールなので広い艇置場とスロープ、浮き栈橋の施設が整っています。大会本部用のテントが張られていました。湖の辺りは韓国大会主催者の経済力を感じさせます。うらやましいです。

右下は道路を挟んで反対側の参加チーム用テント、その左奥はヨットスクールの艇庫らしいです。



2010年度のエントリーは人力ボート22隻（内 水中翼 12隻）、ソーラーボート9隻、合計31隻でした。前年に比べソーラーボートが急増しています。



出場艇の大半はカタマランのタンデムで水中翼または翼なしのタイプ、いわゆる「旧コギト」型です。



中には少し変わった船も（笑）。これは競艇用のボートに船外機付き！船外機を電動に改造しているようですが結局は走りませんでした。 右の写真は空中プロペラ艇、毎年1隻は空中プロペラ艇が出てくるのは偉いです。レースでは向かい風で大苦戦！！ いくら漕いでも殆ど前に進まない場面も・・・



ソーラーボートのいくつかを紹介します。市販の家庭用ソーラーパネルを使用しているのが、重量的にやや不利です。ハルはモノハルあり、カタマランあり、さまざま。



このボートはソーラーパネルをデッキに直接貼り付けていました。



開会式。 この大会の発案者、国立忠南大学校工学部長 金先生の挨拶です。テントの下での快適なセレモニーでした。(これも、うらやましい。)



いよいよレース開始、各チームそれぞれ船を水面に降ろして試走。沈したボートのレスキューも、手慣れたもので、自分たちで起こして再スタートする船もあります。(これはコギトチーム遠征時の鮮やかな転覆→リカバリーがお手本になったのかも・・・)



右は空中プロペラ船の走り。この時は向かい風も弱く順調に走っていましたが本番では・・・



ゼッケン19は忠南大学のエピソード号。 碧南でもおなじみの見事な翼走の姿です。



21番は韓国海洋大学校の「セウル」号



赤のソーラーは地元「昌原大学校」の「アラゴン」号



やや風と波が出て来た水面で人力、ソーラー入り乱れての耐久レース。



戦い済んで日が暮れて・・・ 表彰式&閉会式。



また来年を目指して各チーム記念撮影。

おわりに

以上、昨年8月に韓国釜山近郊の鎮海で開催された韓国人力ソーラー船フェスティバル（祝祭）のご報告でした。今年にはわがチームも参加して見ようかと思いませんか？ 関心のあるチームはJSHA事務局へご連絡ください。

主催者のホームページは下記のURLです。

<http://ship.cnu.ac.kr/~hpfv/index.php>

6. 鎮海報告番外編

リカンベントトライク（3輪車）と足漕ぎカヤック

深町得三

去年の韓国ソーラー人力船祝祭（フェスティバル）を視察した時に会場で目にした2つの乗り物について写真でご報告します。どちらも韓国の商社が売り込みというか宣伝の目的で会場に持ち込んだ商品です。

1) リカンベントトライク（3輪車）

会場でレースが行われている間は実は主催者の先生方は結構ヒマを持って余しています。そんなチャンスを狙ってどこかの自転車屋さんが持ち込んだのが、このリカンベントトライク。早速、忠南大学の金先生が興味を示して試乗しているところをパチリ！



脚の前に何もないというのは、直進するときの目標がないので、慣れないとかなりヨタヨタしていました。また旋回時に内傾出来ないので小回りは苦手ですが3輪なので転倒する危険はありません。

メーカーがどこかは分かりませんが、フレームに書かれた「Tarantula q」という名前を帰国してウェブで検索したらどうやら台湾製の TW-Bents という会社の製品の様です（自信はありません^^;）。



駆動はペダルからチェーンで後輪（ギヤは 9 段）を回し、操舵は前の 2 輪をシート横のスティックを両手で操作します。後輪はサスペンション付き。チェーンにはチューブ状のカバーが付いて、脚の怪我を防ぐ等、細部にもこだわっています。

2) 足漕ぎカヤック：ホビー

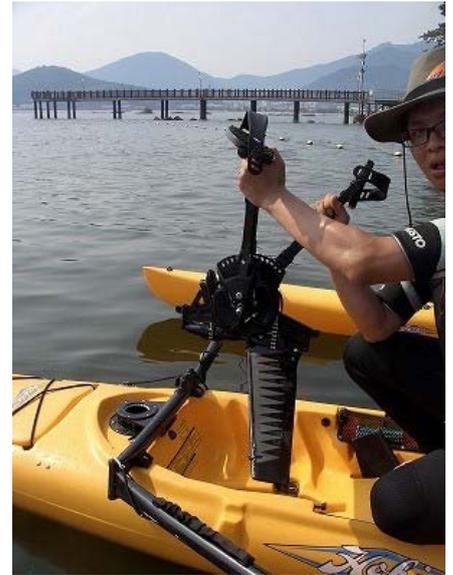
こちらは私も試乗してみましたが、なかなかのグレモノです。さすがカタマランの「ホビーキャット」を世に送り出した会社の製品だけあって、完成度が非常に高いと感じました。





正式名称は「Hobie Mirage Adventure Island」。カヤックに足漕ぎのフィンと折り畳み自由のアウトリガーとセイルが付いたフルスペックのモデル。今年の横浜ボートショーにも展示されていました。

足漕ぎ推進のメカニズムは我々 J S H A メンバーにはおなじみのスイングロールフリッパーにちょっと似ています。自転車のようなペダルは回転はせず往復運動で船底に出ている 2 枚のフィンに蝶々のように羽ばたかせ、そのフィンの揚力で前進する仕組みです。この機構を「ミラージュドライブ」と呼んでいます。



マストは自立式の回転マストでロープの巻き取りによって回転してセイルのローラーリーフが可能です。
この辺りはホビーキャットで永年積んだ経験が生きている設計と関心しました。



以上、鎮海大会の番外編でした。

ホビーカヤックのホームページは下記のURLです。

http://www.popeye-web.com/freepage/hobie_kayak/system/